現在、18カ国の学習者と交流しています。

市岡国際教育協会・日本語教室は、大阪府立市岡定時制高校の閉鎖を受けて、働きながら学ぶ「定時制の灯」を消したくないと定時制高校の同窓会が中心となり1996年5月にスタートしました。市岡国際教育協会は、田龍会(市岡高校定時制同窓会)に母校の廃校後も、引き続き支援して頂いております。

Ichioka 会報

2000/1
第14号

発行人／市岡国際教育協会理事長　八木正一／編集／広報係
大阪市港区市岡元町２－１２－１２　TEL:06-6582-0348

特定非営利活動法人
市岡国際教育協会 日本語教室
●場所 大阪府立市岡高校内
●日時 金曜日午後7時から約2時間
●ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ参加費
入会金　1,000円
年会費　1,000円
●学習者は無料

和気あいあい 秋のハイキング

～古都奈良の散策～

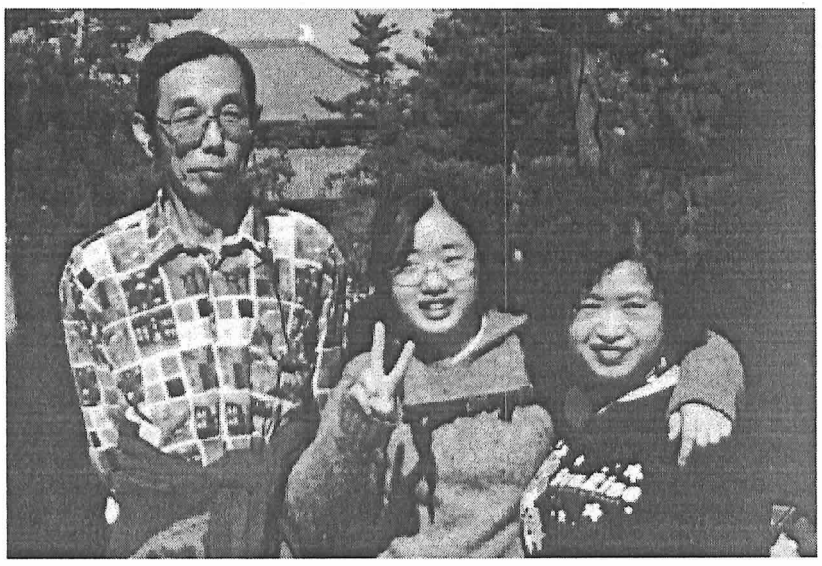
恒例の秋のイベントとして奈良へハイキングに出かけました。当日は学習者の家族、友人も参加し、大いに楽しくにぎやかな一日を過ごしました。

山根寿夫さん<イベント係>よりの報告です。

11月14日 朝。集合場所を市岡高校、弁天町駅、天王寺駅と3つに分けて集合。弁天町9時51分発の大和路快速に乗り、奈良へ。参加人数、大人45名、子供3名の合計48名。4つの班に分かれパンフレット、地図を手に持って出発!! 三条通から猿沢池、興福寺の五重塔へと歩く。いいお天気だったので汗ばむ人も。公園の中を横切り東大寺に向かうが、途中、お店を見たり、お土産を買ったりでなかなか集合できず予定の時間より遅れる。大仏殿の中を拝観し、その後約1時間の食事と休憩。お互いにおかずを分け合ったり写真を撮ったりと楽しく過ごし、お腹もいっぱいになったところで若草山へ。ほとんどの人が頂上まで登り奈良の景色を望む。その後春日大社へ行くがすでに4時すぎになっていたためゆっくり時間が取れずそのままJR奈良駅に行く。5時20分の電車で奈良をあとにする。

(((東大寺の前でハイチ～ズ！)))

「疲れたけれど、いい気持でした。」



家族で参加した玉城晴信さんに当日の感想を二つの母国語（日本語と中国語）で綴っていただきました

奈良への旅は初めてではありませんが、若草山の頂上に登ったのは初めてです。とても疲れましたけれど、周りの景色を眺めますと、いい気持で、嬉しかったです。
また、東大寺で巨大な大仏像に参拝した時、昔の労働者の勤労と知恵に感心しました。

… … … … …

到奈良去旅行並不是初次、而登上若草山的山頂却是第一次。雖然很累、可是、眺望了山下的景色、覚得心情暢快、特別高興。

還有、在東大寺参拝了巨大的佛像時、我対古代労働人民的勤労和智恵感到無限地欽佩。　玉城晴信

エリさん、インドネシアに帰ってもお元気で!!

インドネシアから来られていた学習者のエリさんが、１１月に帰国されました。
帰国前に少しお話をお聞きしました。

☆ ☆ Q：日本には　どのくらい　すんでいましたか？
エリさん：２年くらいです。
☆ ☆ Q：さいしょにはなした日本語は　なんですか？
エリさん：「おはようございます」などの　あいさつです。
☆ ☆ Q：日本のたべものは　どうでしたか？
エリさん：インドネシアのものとは　あじがちがうけれど
たべてみて　おいしいのにびっくりしました。
☆ ☆ Q：こまったことはありましたか？
エリさん：なにかしたいとき　ことばがわからなくて
こまりました。
☆ ☆ Q：なにかひとことお願いします。

- ICHIOKA HIGH SCHOOL,
SENSEI TACHI へ HONTO NI
ARIGATO GOZAIMASHITA.

- SELAMA BELAJAR BAHASA
JEPANG DI SINI, SEMUA GURUNYA
BAIK DAN RAMAH.
TERIMA KASIH BANYAK.

WASSALAM

☆☆どうもありがとうございました。エリさん、どうぞおげんきで

各係からのお知らせ

（広報）

業務のコンピューター化にむけて勉強会をはじめませんか。

ホームページやEメールに詳しい人、興味ある人を募ります。日常の役割分担にとらわれないかたちで集まっていただき、情報化のためのマニュアルづくりをしたうえ、協会への提言としてとりまとめる方針です。関心のある方は広報まで。

（企画）

市岡日本語教室ボランティア養成講座開催

日時：二月十六日～三月十四日の計五回（曜日が金曜日ではないのでご注意下さい）

参加費：新規ボランティア講習会費・三千円、年会費千円

継続ボランティア講習会費二千円（内千円を年会費として充当）

平成十二年度も継続してボランティア活動をされる方は必ず受講願います。

くわしくは、別途講座案内をご覧ください。

ワンポイントアドバイス　第2回

「場所」をめぐる助詞

教務係　野元洋子

Ⅰ「[場所] **を**」と「[場所] **に**」の使い分け

[場所] **を**　出る、離れる、去る　…出発点
[場所] **を**　歩く、登る、渡る　　…通過点
[場所] **に**　入る、着く、入学する…到着点

出発点「～を」　通過点「～を」　到着点「～に」

「大学**を**卒業したら、大学院**に**入りたいです。」

動詞が「出る」で、その出発点を表すときは「～を」を使います。しかし、動詞が「入る」でその到着点を表すときは「～に」を使います。このように、「入る」と「出る」は、別の助詞を伴います。

Ⅱ「[場所] **で**」と「[場所] **に**」の使い分け

「弁天２丁目**で**バスを降りてください。」
「弁天２丁目**に**映画館があります。」

動詞が存在を表す「ある」のときは、その場所を表すのに「～に」を使いますが、動詞が動作を表す「降りる」のときは、「～で」を使います。

読者の広場

学習者より

一緒に中国の歌をうたいませんか？

「はるか遠きところ、すばらしき娘あり。かの天幕行きすぎると、人はみな未練のこしてふりかえる。」

（草原情歌より）

この美しい歌詞をおだやかなメロディーでうたうと、まるで、十年、二十年ぐらい若返る様な気がします。

玉城晴信（たまきはるのぶ）

ボランティアより

冬の金剛山は魅力がいっぱい！

樹氷はもとより三〇㎝位の積雪に恵まれることもあります。毎週登っているので、一番良い頃合にご案内できます。

武平（TEL/FAX 0722-57-7146）まで

ボランティア リレーエッセイ　第4回

「ボランティア雑感」　シュルツ吉田茂子

寒い朝、ゆっくりと読んでいた新聞の片隅に「市岡日本語ボランティア養成講座」の記事を見つけた。市岡といえば港町、その高校に国際教育協会とやらがあるという。これは一体何だろうかと、興味津々で応募した。これが市岡通いの始まりとなった。子供の頃から何故か「言葉」や「伝えること」に執着心の強かった私。成人した頃には病膏肓に入り、役者やアナウンスの訓練を受け、ついでに日本語教授法も学んでいた。が、ボランティアは未知の世界であった。ボランティアとして日本語を教えるというのはどういうことなのか、５回の講座を通してそのポイントを学んだ。会場で出会ったボランティアの方々、講師の先生方から、やりたいことを損得抜きでしている人に、独特の清々しさを感じた。

開講式には大勢の新学習者を迎え、高校の会議室はグローバルな交流の場となった。そこで学習者のニーズの多様性を目の当たりにした。私も同年輩のオーストラリア人女性と出会い、不安と期待の中でクラスがスタートした。最初は学習者の状況を詳しく知る為に、ブロークン・イングリッシュを駆使し、できる限り、コミュニケーションを図った。私自身人生の半ばを過ぎてからカナダに渡り、英語の勉強の為に入ったE.S.L.のクラスで大変苦労した経験がある。それを思い起こし、学習内容は学習者の希望に合わせて無理のないものを準備し、文法や難しい点は母国語で説明するよう努力している。たびたび学習者から実生活の中で日本語がわからず困ったという話を聞く。その都度、どんな日本語で対応すればよいのか説明し練習するが、彼女が最も必要としている学びはこれではないかと感じる。

オーストラリアにいる学習者の息子さん達に先日よからぬ出来事が続いた。「心配でたまらないが帰れないので、何もしてやれない。」と嘆く彼女の気持ちが痛いように伝わってきた。私も過去に同じような経験をしたことを話し慰めあった。言葉や利害関係を越えて気持ちを共有し、お互いに何かができることはボランティアならではの喜びである。

クラスが始まって５ヶ月、新人である私にもボランティアだからできること、ボランティアゆえの難しさが見えてきた。限られた時間、場所、様々な個の集まりの中で私らしく何をしていけるか、何を吸収できるかが今後の課題である。最後に、先輩のボランティアの方々が新人の為に学習者と接する機会を譲って下さっていることに、紙面を借りて感謝したい。

３学期の授業は２月４日まで。

（学習者の人に各担当ボランティアが伝えて下さい。）

市岡国際教育協会の運営にご協力を！

市岡国際教育協会は日本語教室を支えるボランティアのレベルアップを図り、学習者が安心して日本語を学べる環境作りを目指しています。その為に財源の確保が必要です。頂いたご寄付は、ボランティア研修会の補助、会報制作費、事務通信費などに使わせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

郵便振替
口座番号　一四一三〇―七六三〇八八七一
口座名義　市岡国際教育協会